一日おきの低用量アスピリンで結腸直腸がんのリスクが減少する

最近の研究では毎日のアスピリン服用で癌、特に結腸直腸癌のリスクが減少することが示されているが、一日おきの服用についてのエビデンスは少ない。
この研究では、45 歳以上の健康な女性医療従事者 33682 人を対象に長期間にわたる、一日おきの低用量アスピリン服用とがんの関係について検討した。被験者には 100m g の一日おきのアスピリンまたはプラセボを 2004 年 3 月に服用させ、2012 年 3 月まで追跡した。追跡期間の中央値は 10 年であった。
その結果、合計 5071 件のがん発症（乳がん 2070 件、結腸直腸がん 451 件、肺がん 431 件を含む）および 1391 人のがんによる死亡が確認された。全追跡期間を通して、乳がんと肺がんについてはアスピリン服用と関連性はみられなかった。結腸直腸がんはアスピリン服用により減少し、その効果は 10 年後に現れ、42%減少した。がんによる死亡や結腸直腸ポリープには効果はなかった。胃腸からの出血や胃潰瘍がアスピリン投与群でより多くみられた。
したがって、長期間にわたる一日おきの低用量アスピリンで、健康な女性における結腸直腸がんのリスクが減少することが示唆された。
出典：Annals of Internal Medicine 2013; 159: 77-85